

## 2022年5月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2022年4月14日

上場会社名 株式会社ヴィレッジヴァンガードコーポレーション 上場取引所 東  
 コード番号 2769 URL <https://www.village-v.co.jp>  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 白川 篤典  
 問合せ先責任者 (役職名) 常務取締役 (氏名) 佐々木 敏夫 TEL 052-769-1150  
 四半期報告書提出予定日 2022年4月14日 配当支払開始予定日 -  
 四半期決算補足説明資料作成の有無：有  
 四半期決算説明会開催の有無：無

（百万円未満切捨て）

### 1. 2022年5月期第3四半期の連結業績（2021年6月1日～2022年2月28日）

#### （1）連結経営成績（累計）

（％表示は、対前年同四半期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	％	百万円	％	百万円	％	百万円	％
2022年5月期第3四半期	19,481	△8.1	77	—	128	—	28	—
2021年5月期第3四半期	21,196	△14.1	△438	—	△514	—	△527	—

（注）包括利益 2022年5月期第3四半期 18百万円（－％） 2021年5月期第3四半期 △523百万円（－％）

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2022年5月期第3四半期	△7.78	—
2021年5月期第3四半期	△78.51	—

#### （2）連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	％
2022年5月期第3四半期	25,194	7,657	30.3
2021年5月期	24,702	7,759	31.3

（参考）自己資本 2022年5月期第3四半期 7,641百万円 2021年5月期 7,742百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2021年5月期	—	0.00	—	0.00	0.00
2022年5月期	—	0.00	—	—	—
2022年5月期（予想）	—	—	—	—	—

- （注）
- 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無
  - 上記「配当の状況」は、普通株式に係る配当の状況です。当社が発行する普通株式と権利関係の異なる種類株式（非上場）の配当の状況については、後述の「種類株式の配当の状況」をご覧ください。
  - 現時点において2022年5月期の配当金は未定であります。

### 3. 2022年5月期の連結業績予想（2021年6月1日～2022年5月31日）

新型コロナウイルス感染症の世界的な拡大が、国内経済及び当社グループの連結業績に与える影響を現時点で見通すことは困難なことから未定としております。連結業績予想については、合理的に算定可能となった時点で速やかに公表いたします。

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：有

(注) 詳細は、添付資料P. 9「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)」をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更：有

② ①以外の会計方針の変更：無

③ 会計上の見積りの変更：無

④ 修正再表示：無

(注) 詳細は、添付資料P. 9「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)」をご覧ください。

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2022年5月期3Q	7,861,700株	2021年5月期	7,861,700株
② 期末自己株式数	2022年5月期3Q	11,101株	2021年5月期	9,101株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2022年5月期3Q	7,851,229株	2021年5月期3Q	7,855,926株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

○種類株式の配当の状況

普通株式と権利関係の異なる種類株式に係る1株当たり配当金の内訳は以下のとおりです。

A種優先株式	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2021年5月期	—	0.00	—	80,000.00	80,000.00
2022年5月期	—	0.00	—		
2022年5月期（予想）				80,000.00	80,000.00

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 経営成績に関する説明 .....	2
(2) 財政状態に関する説明 .....	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記 .....	4
(1) 四半期連結貸借対照表 .....	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 .....	6
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間 .....	6
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間 .....	7
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書 .....	8
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 .....	9
(継続企業の前提に関する注記) .....	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	9
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用) .....	9
(追加情報) .....	9
(セグメント情報) .....	10

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間（2021年6月1日～2022年2月28日）におけるわが国経済は、新型コロナウイルスの断続的な感染拡大の影響が続くなか、ワクチン接種の普及拡大などにより、経済活動の回復の兆しがみられたものの新たな変異株の出現や、まん延防止等重点措置の再発令など、依然として先行き不透明な状況が続いております。

小売業界におきましては、まん延防止等重点措置の適用を受け個人消費活動が再び低迷し、小売・娯楽施設の人出が大きく落ち込むなど厳しい事業環境が続いております。

このような状況の下、当社グループは、お客様の期待を超えるべく、既存店舗での独創的な空間創出に加え、POPUP催事出店の強化や、オリジナル企画によるクリエイター様や他企業様とのコラボ商品のWEB販売などEC事業の拡大を図り、店舗事業とEC事業を連動させた新たな事業価値の創出・向上に取り組んでまいりました。

このような事業活動の結果、当第3四半期連結累計期間の売上高につきましては、19,481百万円と前年同四半期と比べ1,714百万円の減収（8.1%減）となりました。売上総利益につきましては、仕入のコントロール、アウトレット店舗での在庫の消化を継続的に取り組んだ結果、7,918百万円と前年同四半期と比べ369百万円の増益（4.9%増）となりました。営業利益は77百万円（前年同四半期は438百万円の営業損失）、経常利益は128百万円（前年同四半期は514百万円の経常損失）、親会社株主に帰属する四半期純利益は28百万円（前年同四半期は527百万円の親会社株主に帰属する四半期純損失）となりました。

なお、「収益認識に関する会計基準」（企業会計基準第29号 2020年3月31日）等を第1四半期連結会計期間の期首から適用しております。詳細については「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記（4）四半期連結財務諸表に関する注記事項（会計方針の変更）」をご覧ください。

セグメント別の経営成績は以下のとおりであります。

#### ①ヴィレッジヴァンガード

ヴィレッジヴァンガードは、お客様に買い物を楽しんでいただくため、独創的なワン・アンド・オンリーの空間の創造を目指しております。

各店舗では、書籍・SPICE（雑貨類）及びニューメディア（CD・DVD類）、アパレル等の商材を融合させ、店舗独自の「提案」を展開しております。

主な業態店舗としては、「遊べる本屋」から「コト」も含め取扱分野を広げた「ヴィレッジヴァンガード」、大人も楽しめる空間を演出したライフスタイルショップ「new style」、アウトレット業態「Vintage Vanguard」等を運営しております。またオンライン業態では日本国内でオンラインの書籍・SPICE及びニューメディアの販売を行っており、クリエイター様やアーティスト様とのコラボ商品等、オリジナル性の高い商品を多数取り扱っております。

当第3四半期連結累計期間の経営成績につきましては、売上高は19,481百万円と前年同四半期と比べ1,714百万円の減収（8.1%減）となりました。売上総利益につきましては、仕入のコントロール、アウトレット店舗での在庫の消化を継続的に取り組んだ結果、7,918百万円と前年同四半期と比べ369百万円の増益（4.9%増）となりました。営業利益は77百万円（前年同四半期は438百万円の営業損失）となりました。

当社グループの当第3四半期連結会計期間末の店舗数は、FC店を1店出店し、直営店7店、FC店1店を閉鎖したことにより、直営店315店、FC店5店の合計320店となりました。

#### ②その他

当社グループには海外事業として海外子会社が2社ありますが、比利緹卡（上海）商貿有限公司につきましては2016年3月末をもって店舗を閉鎖、TITICACA HONGKONG LIMITEDにつきましても2017年6月末をもって店舗を閉鎖しております。順次、会社清算へ向けた手続きを進めてまいります。

## (2) 財政状態に関する説明

①資産、負債及び純資産の状況は、以下のとおりであります。

## (資産)

流動資産は、前連結会計年度末に比べて3.0%増加し、21,907百万円となりました。これは、現金及び預金が1,354百万円増加したことなどによるものです。

固定資産は、前連結会計年度末に比べて4.3%減少し、3,286百万円となりました。これは、建物及び構築物(純額)が66百万円、ソフトウェアが4百万円、差入保証金が57百万円減少したことなどによるものです。この結果、総資産は、前連結会計年度末に比べて2.0%増加し、25,194百万円となりました。

## (負債)

流動負債は、前連結会計年度末に比べて5.4%減少し、7,890百万円となりました。これは、買掛金が381百万円、未払金が163百万円減少したことなどによるものです。

固定負債は、前連結会計年度末に比べて12.1%増加し、9,645百万円となりました。これは、長期借入金が1,161百万円増加したことなどによるものです。この結果、負債合計は、前連結会計年度末に比べて3.5%増加し、17,536百万円となりました。

## (純資産)

純資産合計は、前連結会計年度末に比べて101百万円減少し、7,657百万円となりました。これは、利益剰余金が91百万円減少したことなどによるものです。

## ② キャッシュ・フローの状況

当第3四半期連結累計期間における現金及び現金同等物(以下「資金」という)は、前第3四半期連結累計期間に比べ1,354百万円増加し、5,207百万円となりました。

当第3四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

## (営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果獲得した資金は535百万円(前年同四半期は1,765百万円の収入)となりました。これは、主に仕入債務の減少額381百万円があったものの、減価償却費232百万円、棚卸資産の減少額428百万円があったためであります。

## (投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果使用した資金は211百万円(前年同四半期は140百万円の支出)となりました。これは、主に無形固定資産の取得による支出108百万円があったためであります。

## (財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果獲得した資金は1,030百万円(前年同四半期は2,044百万円の収入)となりました。これは、主に長期借入金の返済による支出4,416百万円があったものの、長期借入れによる収入5,707百万円があったためであります。

## (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2022年5月期の連結業績予想につきましては、現時点では未定とし、新型コロナウイルス感染症拡大が沈静化し、業績への影響を合理的に算定することが可能となった時点で速やかに公表いたします。

## 2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2021年5月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2022年2月28日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	3,853	5,207
受取手形及び売掛金	1,106	1,029
商品	15,707	15,279
その他	603	395
貸倒引当金	△5	△3
流動資産合計	21,266	21,907
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	1,357	1,291
その他(純額)	128	105
有形固定資産合計	1,485	1,397
無形固定資産		
ソフトウェア	374	370
ソフトウェア仮勘定	41	47
その他	1	1
無形固定資産合計	418	419
投資その他の資産		
長期前払費用	77	74
差入保証金	1,452	1,394
その他	8	2
貸倒引当金	△7	△1
投資その他の資産合計	1,531	1,470
固定資産合計	3,435	3,286
資産合計	24,702	25,194

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2021年5月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2022年2月28日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	3,466	3,084
短期借入金	241	244
1年内償還予定の社債	30	30
1年内返済予定の長期借入金	3,351	3,481
未払金	459	295
未払法人税等	82	46
未払消費税等	121	156
株主優待引当金	28	39
賞与引当金	34	30
資産除去債務	18	17
その他	503	463
流動負債合計	8,337	7,890
固定負債		
社債	195	165
長期借入金	6,451	7,612
長期末払金	155	99
役員退職慰労引当金	384	396
退職給付に係る負債	181	174
資産除去債務	1,173	1,135
その他	64	61
固定負債合計	8,604	9,645
負債合計	16,942	17,536
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	2,330	2,330
資本剰余金	3,807	3,807
利益剰余金	1,594	1,502
自己株式	△0	△0
株主資本合計	7,732	7,641
その他の包括利益累計額		
為替換算調整勘定	10	0
その他の包括利益累計額合計	10	0
新株予約権	17	16
純資産合計	7,759	7,657
負債純資産合計	24,702	25,194



(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書  
 (四半期連結損益計算書)  
 (第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2020年6月1日 至 2021年2月28日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2021年6月1日 至 2022年2月28日)
売上高	21,196	19,481
売上原価	13,647	11,563
売上総利益	7,549	7,918
販売費及び一般管理費	7,987	7,840
営業利益又は営業損失(△)	△438	77
営業外収益		
仕入割引	15	22
業務受託料	45	73
協力金収入	—	56
その他	28	47
営業外収益合計	89	199
営業外費用		
支払利息	105	104
営業外支払手数料	45	39
その他	14	4
営業外費用合計	165	148
経常利益又は経常損失(△)	△514	128
特別利益		
新株予約権戻入益	1	0
助成金収入	19	—
違約金収入	41	0
特別利益合計	62	0
特別損失		
固定資産除却損	13	23
減損損失	2	6
投資有価証券売却損	0	—
店舗閉鎖損失	20	—
特別損失合計	36	29
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	△488	99
法人税等	38	70
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△527	28
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△527	28

(四半期連結包括利益計算書)  
(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2020年6月1日 至 2021年2月28日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2021年6月1日 至 2022年2月28日)
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△527	28
その他の包括利益		
為替換算調整勘定	3	△10
その他の包括利益合計	3	△10
四半期包括利益	△523	18
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△523	18

## (3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2020年6月1日 至 2021年2月28日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2021年6月1日 至 2022年2月28日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	△488	99
減価償却費	245	232
固定資産除却損	13	23
減損損失	2	6
退職給付に係る負債の増減額(△は減少)	△19	△6
受取利息及び受取配当金	△0	△0
支払利息	105	104
営業外支払手数料	45	39
店舗閉鎖損失	20	—
売上債権の増減額(△は増加)	△702	78
棚卸資産の増減額(△は増加)	179	428
仕入債務の増減額(△は減少)	2,158	△381
その他	357	131
小計	1,918	756
利息及び配当金の受取額	0	0
利息の支払額	△106	△101
法人税等の支払額又は還付額(△は支払)	△45	△118
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,765	535
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
有形固定資産の取得による支出	△9	△52
無形固定資産の取得による支出	△104	△108
差入保証金の差入による支出	△12	△9
差入保証金の回収による収入	36	28
その他	△50	△69
投資活動によるキャッシュ・フロー	△140	△211
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
短期借入金の純増減額(△は減少)	598	3
長期借入れによる収入	4,700	5,707
長期借入金の返済による支出	△2,959	△4,416
社債の償還による支出	△30	△30
営業外支払手数料の支出	△45	△39
割賦債務の返済による支出	△98	△73
配当金の支払額	△121	△120
財務活動によるキャッシュ・フロー	2,044	1,030
現金及び現金同等物に係る換算差額	△0	0
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	3,668	1,354
現金及び現金同等物の期首残高	3,396	3,853
現金及び現金同等物の四半期末残高	7,065	5,207

## (4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

(税金費用の計算)

当連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算する方法を採用しております。

ただし、当該見積実効税率を用いて税金費用を計算すると著しく合理性を欠く結果となる場合には、税引前四半期純損益に一時差異等に該当しない重要な差異を加減した上で、法定実効税率を乗じて計算しております。

(会計方針の変更)

(収益認識に関する会計基準等の適用)

「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日。以下「収益認識会計基準」という。)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、約束した財又はサービスの支配が顧客に移転した時点で、当該財又はサービスと交換に受け取ると見込まれる金額で収益を認識することといたしました。収益認識会計基準等の適用による1つ目の変更点は、モール等における販売時にポイントを付与するサービスの提供について、従来は付与したポイントの額を販売費及び一般管理費で処理しておりましたが、売上高のマイナスとして計上することとしております。2つ目の変更点は、代理人取引に係る収益認識であります。代理人取引に係る収益について、従来は顧客から受け取る対価の総額を収益として認識しておりましたが、顧客への財又はサービスの提供における当社グループの役割が代理人に該当する取引については、顧客から受け取る額から仕入先に支払う額を控除した純額で収益を認識することとしております。

収益認識会計基準等の適用については、収益認識会計基準第84項ただし書きに定める経過的な取扱いに従っており、第1四半期連結会計期間の期首より前に新たな会計方針を遡及適用した場合の累積的影響額を、第1四半期連結会計期間の期首の利益剰余金に加減し、当該期首残高から新たな会計方針を適用しておりますが、当該期首残高に与える影響はありません。

この結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は1,004百万円減少し、売上原価は997百万円減少し、販売費及び一般管理費は7百万円減少しております。また、営業利益、経常利益及び税金等調整前四半期純利益への影響はありません。

(追加情報)

(新型コロナウイルス感染症拡大の影響に関する会計上の見積り)

前連結会計年度の有価証券報告書の重要な会計上の見積りに記載した、新型コロナウイルス感染症の影響については、ワクチン接種等により、2022年度にかけて徐々に回復していくとの仮定に重要な変更はありません。

(連結納税制度からグループ通算制度への移行に係る税効果会計の適用)

当社及び一部の国内連結子会社は、「所得税法等の一部を改正する法律」(令和2年法律第8号)において創設されたグループ通算制度への移行及びグループ通算制度への移行にあわせて単体納税制度の見直しが行われた項目については、「連結納税制度からグループ通算制度への移行に係る税効果会計の適用に関する取扱い」(実務対応報告第39号 2020年3月31日)第3項の取扱いにより、「税効果会計に係る会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第28号 2018年2月16日)第44項の定めを適用せず、繰延税金資産及び繰延税金負債の額について、改正前の税法の規定に基づいております。

## (セグメント情報)

## I 前第3四半期連結累計期間(自 2020年6月1日 至 2021年2月28日)

## 1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント	その他 (注) 1	合計	調整額	四半期連結損 益計算書計上 額(注) 2
	ヴィレッジヴァンガード				
売上高					
外部顧客への売上高	21,196	—	21,196	—	21,196
セグメント間の内部売上 高又は振替高	—	—	—	—	—
計	21,196	—	21,196	—	21,196
セグメント利益又は損失 (△)	△438	—	△438	—	△438

(注) 1. 「その他」の区分は、比利緹卡(上海)商貿有限公司及びTITICACA HONGKONG LIMITEDが含まれておりま  
す。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

## 2 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

当第3四半期連結累計期間に「ヴィレッジヴァンガード」セグメントにおいて、2百万円の減損損失を  
計上しております。

## II 当第3四半期連結累計期間(自 2021年6月1日 至 2022年2月28日)

## 1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント	その他 (注) 1	合計	調整額	四半期連結損 益計算書計上 額(注) 2
	ヴィレッジヴァンガード				
売上高					
外部顧客への売上高	19,481	—	19,481	—	19,481
セグメント間の内部売上 高又は振替高	—	—	—	—	—
計	19,481	—	19,481	—	19,481
セグメント利益又は損失 (△)	77	△0	77	—	77

(注) 1. 「その他」の区分は、比利緹卡(上海)商貿有限公司及びTITICACA HONGKONG LIMITEDが含まれておりま  
す。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

## 2 報告セグメントの変更等に関する事項

第1四半期連結会計期間において、当社の連結子会社である株式会社ヴィレッジヴァンガードを存続会  
社、同じく当社の連結子会社であった株式会社Village Vanguard Webbedを消滅会社とする吸収合併をしたこ  
とにより、管理区分の見直しを行っております。これに伴い、従来、報告セグメントに含まれない「その他」  
の区分に含めておりました株式会社Village Vanguard Webbedの事業を、「ヴィレッジヴァンガード」セグメン  
トに含めて記載する方法に変更しております。

なお、前第3四半期連結累計期間のセグメント情報は、変更後の区分に基づき作成したものを開示しており  
ます。

3 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報  
(固定資産に係る重要な減損損失)

当第3四半期連結累計期間に「ヴィレッジヴァンガード」セグメントにおいて、6百万円の減損損失を計上しております。